

## 令和元年度 第3回学校運営協議会 議事録

### 1. 校長挨拶

- ・先日卒業判定会議にて3年生在籍315名全員の卒業が認められる
- ・コロナウィルスの流行にともない、宿泊をとまなう行事（アメリカ短期研修、合宿など）やサーティホールでの行事は要検討
- ・令和2年度の中期計画が本日の中心議題

### 2. 議題

#### (ア) 学校教育自己診断分析結果

##### ① 生徒編

- ・全体的に横ばい、あるいは少し下がっている
  - ・「授業がわかりやすい」が6ポイント落ちている
- ⇒「主体的・対話的な学び」への対応が遅れている。
- ・「学習環境が整っている」が5ポイント落ちている
- ⇒自由記述では設備面（トイレ、蛍光灯）などの不満も多かった。

トイレは来年度大幅工事予定

- ・あいさつ、遅刻、学校のルールなど規範意識の項目は約90%を維持

##### ② 保護者編

- ・全体的に横ばい、あるいは少し上がっている。
- ・行事等に積極的に参加していただけている。
- ・授業参観を計画中

#### (イ) 令和元年度学校評価

- ・授業のわかりやすさが落ちている。真摯に受け止め改善に努めたい。
- ・ミドルリーダー育成の「熱打会」を3回実施
- ・保護者からの進路指導に対する満足度は上がっている。
- ・ペーパーレスの実現には課題が多い
- ・主体的で対話的な授業を実践している教員は約9割。しかし授業全体に対する割合は約4割。さらなる改善が必要。

⇒授業公開などを利用

- ・週末課題、ほぼ100%の提出率を実現
- ・台湾修学旅行生受け入れ済み。アメリカ短期語学研修はコロナの影響により中止の可能性あり。
- ・2020年問題⇒情報を適切に収集し、不確定の情報に惑わされないよう心掛けている。
- ・探究委員会…新カリキュラムに備え、現在新2年生の探究内容はほぼ完成。
- ・遅刻カウント…通院、連絡あり遅刻をカウントしていなかったが、すべて計上した結果700件を超えた。800件未満を維持していく。
- ・相談しやすい先生は増えている。一方支援を必要とする生徒数も増えている。

スクールカウンセラー年間10回招聘しているが、足りない。校長マネジメント予算で回数を増や

せないか検討中。

- ・1年生の入部率目標70%に対して、5月段階で78%が入部。
- ・地域連携が高等学校の課題⇒吹奏楽部の演奏、植物部の活動、生徒会の地域のお祭りへの参加

#### (ウ) 令和2年度 学校経営計画

- ・令和元年度からかなり変更している。
- ・生徒にはぐくみたい力⇒将来を想像する力、主体的に物事を考える、挑戦する姿勢、多様性理解

#### ●中期目標…3年目安に実現

- ・第1項目「確かな学力」とは？⇒思考・判断・表現力、主体性・多様性・協働性

- ・授業外学習で自学自習を促す

- ・キャリア教育の充実⇒来年度よりキャリアパスポートを取り入れる。

- ・第2項目「生徒指導」⇒「豊かな人間力の育成」

- ・生徒指導内規の見直し⇒時代に合わせた生徒指導を

- 例：文化祭中の携帯電話使用 OK

- ・教育相談体制

- ・支援を必要とする生徒の増加

- ・カウンセリング延べ数は昨年から倍増。顕在化もあるか。

- ・第3項目「学校力、教員力の向上」

- ・授業改善が急務

- ・学校発信⇒学校DVDの作成（HP等で公開予定、インスタグラム）

- ・地域連携…防災活動など

- ・働き方改革…月間勤務時間外労働80時間以上の教員数⇒半減

- 理由…部活動の活動方針に一定の制限がかかった

- 部活活性化をのぞむ声も一定ある

- ・特定の教員への業務の偏り、書類の取捨選択などが課題

#### ●具体的な取り組み

- ・教科会などでの検討、授業見学週間

- ・4技能伸長

- ・各種検定

- ・キャリアパスポート

- ・キャプテン、マネージャー会議の開催

令和2年度学校経営計画について、承認

### 3. 協議

「授業がわかりやすい」のポイントが下がったことについて

- ・新入生のベネッセの結果は？

⇒昨年までは記述式、今年からスタディサポート（マーク式）。一概に比較はできないが、D3の数は若干増えた。

⇒経年変化の観察は大事。少子化の影響を受けて新入生の層、性質を見極める必要がある。数値だ

けでなく。

・相談しやすい先生が増えたのはとてもよいこと。教育相談体制の充実。

カウンセリングをうけることは決してネガティブでない。情報提供はあるのか？

⇒情報のレベルによるが、生活支援や学習支援が必要、合理的配慮が必要な生徒については職員会議で月1回以上各学年・各担任から必ず報告がある。

⇒大学ではなかなか情報共有に踏み込めなかった。相談室で止まっていた。ぜひ次年度も継続してほしい。

・一般入試まで1か月を切ったが、公立高校に志願者が集まらない。枚方市の高校7校で定員をこえたのは2校のみ。少子化なのか、私立指向なのか。かつて定員割れはあったが10名程度。中学校としては避けたいが、競争原理が働いていることを感じる。中高連携の話でいえば、定員割れは避けたいし、中学生にとって魅力的な高校生活とはなにかを探っていきたい。魅力的な学校づくりを中高で手を取り合って取り組みたい。

⇒府全体で公立高校の統廃合が躊躇なくすすんでいる。昨年は2校。クラス数のスケールダウンも多い。私学無償化制度の流れか。学校間でも状況が違うが、公立間競争よりも私学に流れているように感じる。施設設備を一新した私立も多い。津田は府立高の中でも特異な存在。学力と人間力のバランスがとれている。このよさを伝統としてさらに進めたい。しかしアピールしにくい（数値、結果等であらわれない）面もある。進路実績などを残し、生き残り、差別化を図る必要がある。

⇒インスタグラムなど多角的な発信。中高連携の中で教育内容を刷新。

・こどもが通っているからはじめて学校の良さがわかる。校風の良さや穏やかな環境などは入学前は伝わりにくい。どう発信していけばいいのか。行儀がよい。クラブの応援などで他校を見ているも感じる。知らない人に伝える方法とは？

⇒枚方市内でそこまで困難な高校は少ない。急に国公立進学実績を増やすのは難しいし、津田にはまだそぐわない。教育相談や豊かな人間力の育成などを発信してもらえると中学校としてはありがたい。

⇒先輩からの口コミが中学生にとってはとても大きい情報。中学校でも卒業生を招聘し進路学習を行っている。一番近くにある津田が魅力的な学校であることはありがたい。

⇒ICTなど設備投資、効率がよいしわかりやすい魅力。私学の強み。

・学校に行くのが楽しい 73.8%は高いのか低いのか？クラスで力のある子がいい子だとクラスが楽しいと感じるらしい。合理的配慮を知っている先生と知らない先生がいると不安。

⇒転学生徒は本校にも一定数いる。不登校傾向にある生徒も増えている。卒業させたい気持ちはあるが、本人のことを考えると本当に引き止めるのがよいことなのかはわからない。集団になじめない生徒が増えているので、通信制などに通うのがよい場合もある。本校では学校とのつながりが断たれないよう、オアシス登校なども可能な体制を整えている。しかし特別扱いを嫌がったり、保護者が障害受容できていないパターンもある。最前線に立つ担任が、ノウハウ・スキルを高めていくことが課題。

⇒授業力をあげる研修も必要だが、一人一人の生徒と向き合うコミュニケーションスキルの研修も必要かもしれない。